

ぎかい

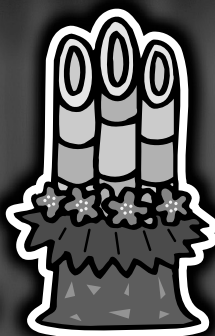
小国町議会だより 第115号



2013.1.17



迎春



主な内容

- | | |
|--------------|---------|
| ■ 12月定例会概要 | 2～3 ページ |
| ■ 一般質問 | 4～7 ページ |
| ■ 視察研修報告 | 8～9 ページ |
| ■ 議員研修会 | 10 ページ |
| ■ 議長年頭のあいさつ | 11 ページ |
| ■ まちかどインタビュー | 12 ページ |
| ■ 表紙のことば | 12 ページ |

表紙写真／沖小歌舞伎 白浪五人男

小国町議会

ホームページ <http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html>
e-mail gikai@town.oguni.yamagata.jp

小国町議会

検索

可決! 一部減額 される

平成24年度
12月定例会
12月11日(火)～13日(木)

=多目的屋内運動場使用に関わる条例制定=

12月定例会は24年度各会計の補正予算8件、請願3件、条例の制定4件、条例の一部改正7件、財産取得2件、人事案1件、請願3件が提案されました。審議の結果、一般会計補正予算案の減額修正動議が賛成多数で可決され一部修正されましたが、他の案件についてはすべて可決承認されました。一般質問は、4名が町政の諸問題について質問しました。

詳細は、インターネット録画映像をご覧ください。(小国町議会HPよりアクセス)

一般会計補正

一部減額修正動議

166万3千円

学校管理費

○提案理由概略
小国小学校で調理した食事を、叶水小中学校に運ぶために必要な運搬車両及び食器等の購入経費を計上した。

修正動議概略

○修正動議
一年間待てば設備の整った調理室が完成し給食が提供できる。また、計画されている給食は、一部の小中学校のみの内容であることから事業は見直すべきである。

賛成者 齋藤弥輔

賛成者 今 正徳

賛成者 安部春美

修正動議に反対討論

本間義信、米野貞雄

修正動議に賛成討論

遠藤和彦

○採決の結果、賛成多数で修正動議が可決され、予算案は一部減額修正された。

減額修正後の予算 追加補正

1億5千968万円

予算総額

82億1千390万円

可決された主な予算

◆地域活性化支援事業
プレミアム付き買い物券発行事業の一部助成

◆工業用水道利用助成
コバレントマテリアル(株)の年間契約使用料の約8割助成

◆林道樽口峠線地すべり災害復旧工事費

◆その他
債務負担行為の設定

平成25年度から27年度まで水源の郷パークゴルフ場施設の管理費用について

特別会計補正

◆国民健康保険事業

出産育児一時金の追加

◆下水道事業

岩井沢二号マンホールポンプ移設

◆訪問看護事業

看護師の配置替えによる人件費の追加

介護保険事業 制度の改正に伴う経費

事業会計補正

◆病院事業

看護師の配置替えによる人件費の追加等

◆水道事業

「水道施設更新基本計画」策定費用

◆老人保健施設事業

材料費及び賃金の減額による経費の組み換え

条例の制定

◆多目的屋内運動場条例
「ふれあいの家」代替施設の使用規定の制定



多目的屋内運動場外観イメージ

一般会計 補正予算案

修正動議

- ◆ 小国町指定地域密着型サービス事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例
- ◆ 小国町指定地域密着型介護予防サービス事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例
- ◆ 小国町水道事業及び簡易水道事業の布設工事監督者等に関する基準を定める条例
- ◆ 条例の一部改正
- ◆ 小国町下水道条例
- ◆ 小国町営住宅条例
- ◆ 小国町営バス設置及び管理に関する条例
- ◆ 小国町勤労者住宅設置条例
- ◆ 小国町老人保健施設事業の設置に関する条例
- ◆ 小国町介護給付費準備基金条例
- ◆ 小国町一般職の職員の給与に関する条例

財産取得

- ◆ 土地 大字西字屋敷添 6653㎡
取得価格 9千114万円
- ◆ 建物 大字西字屋敷添 共同住宅一棟 2046㎡
駐車場鉄骨造り三階建 1万2千64㎡
取得価格 5億1千571万円
- ◆ 土地 大字西字屋敷添 2033㎡
取得価格 2千785万円

人事

- ◆ 人権擁護委員の推薦に意見を求められ、適任と認めた。
- 伊藤 れい子氏（新任）
小国町大字叶水17番地3



請願審査

- ◆ 少人数学級の推薦及び義務教育国庫負担制度の改善について
- 採択
- 関係機関に意見書提出
- ◆ 平成25年度農業予算に

かかる請願書

- 採択
特に雇用創出を視野に入れた予算編成を望む
- ◆ 国に対し、消費税増税の実施中止を求める意見書提出について
- 継続審査
なお調査、検討を要する

臨時議会

- 平成24年10月26日
- ◆ 専決処分の承認
- 名誉町民合同葬に関わる印刷製本費、誘導委託等
- ◆ 一般会計補正予算可決
- 新小国小学校建設工事 関連、木質チップポイラー導入工事費
- 平成24年11月26日
- ◆ 専決処分の承認
- 衆議院議員総選挙の経費
- ◆ 一般会計補正予算可決
- コバレントマテリアル（株）所有の若竹寮及び第四駐車場の購入経費
- 平成24年12月19日
- ◆ 人事案に同意
- 副町長 山口 政幸氏
小国町大字東原2-2
- 新小国小学校建設工事 関連、木質チップポイラー導入工事請負契約 落札業者 黒澤建設工業（株）



小国町産業振興 始まりは「道の駅」

小 関 和 好



「道の駅」は、
町の顔であるべき

小関 どこに行っても今や「道の駅」は、その町の観光の拠点、また物産の販売のベースとなり観光業・六次産業・商業者には、無くてはならない施設となっている。当町の「道の駅」においても昨年は、22万人の利用者があつたと聞いている。飯豊の「めぎみの里」に関しては50万人の利用者と6億5000万円の売り上げがあると聞いている。

当町の今後の観光・地域産業・商業を活性化するのに「道の駅」の在りようが大きな役割を担っていると考えている。又、利用者が増える事によりいろんな場所での雇用創出や波及効果が期待できることから早々に活性化の策を講じるべきと考えるが町長の構想は、あるのか。

環境整備に

取り組んでいく

町長 近年は、観光の形態

が大きく変化し、個別の興味、嗜好によりマイカーを利用した比較的小単位の旅行が多くなっており、これに対応した道路情報の提供のほか、新たな観光サービス機能として「道の駅」における総合的な地域情報の発信に対する期待は年々高まってきた。

この事から、町では観光協会と連携し、「あいあい」の中に設置している情報コーナーに緊急雇用制度を活用して通年で案内人を配置するなど、きめ細やかな情報の収集と発信に努めている。本町においては、「道の駅」を会場に「石楠花祭り」や「山菜まつり」「秋の味覚まつり」といったイベントを開催している。これらのイベントの開催や特産品等の販売、地域情報の発信は、「道の駅」に期待する有効な地域活性化策の一つであるので今後ともこうした事業展開を支援していく。

今後ますます、利用者の利便性を高めるための効果的な地域情報の発信に努め

ながら、小国町に関心を持つてもらい、交流と滞在、そして定住につなげていくための事業を継続していく。

また、これまでの取り組みに加えて「道の駅」の更なる魅力づくりとして、よりタイムリーな地域情報の提供や観光キャンペーン等と連動した、食事メニューづくり等の地域特産品の情報発信強化を図る事により、近隣の類似施設に負けない入れ込み客数の増加を目指すとともに中長期的には、高規格道路の整備を見据えて、電気自動車の電源スタンドの設置や、施設全体の配置計画を立てながら、施設機能の充実とイメージアップを図り、地域特産品販売コーナーの設置等物流機能を強化するなどにより、本町を広くアピール出来る「道の駅」になるよう指定管理者と協議をしながら環境整備に取り組んでいく。

小関 小国町にはまだまだ旨いもの、いいものがいっぱいあると思うが「道の駅」

にあるのに「道の駅」にないは、おかしくないか。

町の施設として町民が等しく利益が得られるように考えるべきであろう。

また、事ある度に話題となる指定管理者の在り方についても考えなくてはならないのではないか。

町長 よりよい方向にむかうよう指定管理者と町の距離を近くし、今まで以上にコミュニケーションを密にし改善していきたい。

その他の質問

温泉施設「ゆくゆ」の今後の有効利用に関して



白い森おぐに「道の駅」



安全で平等な 通学体制と給食実施

齋藤 弥 輔

安全で平等な 通学体制について

齋藤 小中学校の統廃合により、スクールバスや町営バスによる通学が行われているが、スクールバスで通学している旧伊佐領小学校校区は小学生のみが利用可能であるが、中学生は父兄が送迎している。沖庭小学校校区の中学生もほとんどが父兄の送迎である。来春から北部小中学校が統合になり、スクールバスの運行も予定されているが、橋一つを境に栃倉地区からはスクールバスが利用できない状態では平等ではない。送迎できない父兄がいることや、中学校前の道路が通学時に混雑している事など安全面をどう考えているのか。

町長 平成26年4月を目途に通学体制を見直す予定である。伊佐領地区や沖庭地区の中学生をはじめ、数地区から、交通費の負担の上で均衡を欠くとの意見から町営バス等も含めた町全体

での通学体系の在り方を、早期に調査検討するように指示した。

給食実施

要綱について

齋藤 町長の選挙公約で「給食の実施」としている。12月1日関係父兄を集めて「学校給食の実施について」という事で、小国小学校6年、小国中学校1、2年の保護者を対象に懇談会が開催されたが具体的な実施要綱などは提示されなく、実施するのか、しないのかもはっきりせず、何のため集まったのか、又、どのような方法で実施するのが分からない状態である。給食の実施要綱はどのようなになっているのか。

町長 公約に掲げた約束事とはいえ、状況の変化や民意を把握せずに無理を通す事は本意ではない。民意による公約の修正、変更は当然あり得る。

小国中学校給食実施方法は、三つの方法が検討され、

調理を含めた「外部委託による弁当方式」が実施可能な方法である。実施要綱を作成するという前段の関係者の意向調査を行う趣旨として懇談会を開催した。

また、叶水小中学校については現小国小学校から搬送する方式が可能かどうか、その方法で実施できると判断した。

齋藤 公約を実施しないという事を町長が父兄を集めて説明するのか。

町長 6割強の方が26年4月から良いというアンケート結果から再度話し合い

を行う。

齋藤 9月議会での私の質問の答弁において、町内の業者で学校給食法に準じる外部業者、食育とのつながりは地産地消を含め、教育委員会と学校で献立を決める、施設整備には経費は発生しないと言っているが、答弁にうそ偽りはしないのか。

町長 9月時点での検討結果で答弁した。

齋藤 9月に言ったものは12月では関係がないというものではない。



小国中学校校門前

孤独死、孤立死に対する 考えと、その対策について

本 間 義 信



本間 私は、孤独死や孤立死などは絶対にあってはならないと考えているが、町の考えと、その対策についてお聞きしたい。ひとつの案として、安心見守り対策だが、ヤクルトなどを毎日届け、必ず返事があるか等の確認をし、今日は何か用事がありますか等の声かけをする事業展開を実施すべきでないか。

町長 今後は、空き校舎等を拠点に高齢者の生活支援についても検討していく。私も、孤独死、孤立死などはあつてはならないし、未然に防止するための対策を講じる必要性を十分認識している。

いま議員から、安心見守り対策として一つの提案をいただいたが、この方法も検討内容とさせていたしながら地域サロンの取り組みによる声かけ、見守りなど、地域で共に助け合い、支え合いながら住みやすい、孤独にならない環境づくりをさらに



田沢頭なごやかサロンでの健康体操の様子

進めて行きたいと考えている。このことから、社会福祉協議会が取り組んでいる安心見守りサービスや、訪問看護、ホームヘルプサービスなどの各種の居宅介護サービスを適切に提供していくとともに、特に民生委員の方々など、関係機関が、なお一層連携を図りながら、相互扶助システムの構築に努めていきたいと思う。

今後は、空き校舎等を拠点に、「携帯端末を利用した見守り事業」や地域内巡回方式による安否確認など高齢者の生活支援についても検討していく。

雇用対策について

本間 小国町の雇用対策についてもお聞きする。

町長 新たな雇用を創出し地域経済の活性化に結びつけたいと考えている。これまでの対策として、

役場臨時職員として直接雇用、事業委託による雇用や事業者の需要に対して助成する「ふるさと雇用制度」等の活用による雇用の場の確保に努めてきたが、本町の極めて厳しい状況下にあつては、中・長期的な視点で、景気・雇用対策、産業の振興策に

ついて積極的に取り組んでいきたいと考えている。

具体的には、試験運行を予定している町営バスの運行による新たな雇用の創出、学校給食による雇用の場を確保するとともに農業等を含む経済効果も期待している。さらに、長期的にはケア付き住宅や共同住宅の整備など、高齢者の福祉施策の充実、本町の自然条件や資源を活用した「再生可能エネルギー」等の取り組みにより、新たな雇用を創出し地域経済の活性化に結びつけていきたいと考えている。



いきいきサロン 輪なげ大会の様子



課題解決は官・民の協働で ＝情報を共有化し、実効ある施策に＝

小林 嘉

町民と

共に働く「協働」

体制づくりを

小林

町民の声を聴く姿勢には好感を持つ。職員・

町民で課題・情報を共有し「協働」する体制で、真の「町民主役の町づくり」を望む。

多くの町民の

声を聴き対応

町長

町民一人ひとりの絆を取り戻し、共に支えあう

気持ちを持ち、心を一つにすることで、住みやすい

「町民主役のまちづくり」を実現できる。このためには、最も身近にある役場、

行政と町民の信頼関係が不可欠。その担い手となる町

職員の意識改革と柔軟な組織体制を構築していく。外部識者三名による「まちづくり戦略会議」もスタートした。

地区に職員配置を

するの

小林

「職員の地域担当制」

は、前町政の人件費抑制で実現していない。課題を解決できるのか。

「〇〇地区振興室」

を設置する

町長

空き校舎に職員を複数配置し、住民と共に地域課題の解決にあたる「地区振興室」を配置する。「身近な役場」「町職員の意識改革」に繋がると確信する。

小国高校は

存続できるのか

小林

5年前、町民運動の結果、県教委から入学定員緩和措置を得て1学年2学級編成を継続してきた。少子化が進む中、今後も存続していけるのか。

存続できるよう

意を傾ける

町長

小中高一貫教育に取り組んでいるなどの特殊性から、入学者が40名程度で3年間続いた場合に、翌年から1学級減という緩和措置がとられている。今後も、一貫教育の連携を密にしな

から、存続できるよう意を傾ける。又、注目度の高い高校になるような方策を積極的に検討していく。

新産業創生は

緊急課題だ

小林

益々厳しくなる小国町の雇用情勢に対応するために、雇用創生・創出の専門部署を設け、職員専従で対応すべきである。

組織横断的に

取り組む

町長 緊急な支援策は対応している。基本的にはそれぞれの分野を所管する課が情報の共有と連携を図りながら展開していくことが肝要と考える。

スピード感に

欠ける対応だ

小林

組織横断的な対応では町長が目指すスピード感に欠ける。町長に直属するプロジェクトチームで対応すべきである。



空き校舎を利用して地域を活性化



東北はいま…

— 小国町議会議員視察研修 —

視察研修報告

視察年月日

平成24年11月6日（火）
～8日（木）

目的

小国町の抱える様々な課題に迅速に対応するため、雇用対策や防災などの先進事例を調査研究し、課題の解決と議員の資質向上を図ることを目的とした。

視察先

● 秋田県にかほ市
（TDK株式会社の撤退の現実と対策）

● 秋田県横手市
（克雪利雪・雪冷房システム）

● 宮城県大衡村
（企業誘致成功の努力と方法）

● 宮城県女川町
（被災地の復興）

希望の鐘

「希望の鐘」は、元々は JR 女川駅の駅前広場にあり、駅に汽車が到着するとそれをみんなに知らせる「カケリ」時計台に4つ付いていた鐘の1つです。平成23年3月11日の東日本大震災の大津波により女川駅は土台のみとなり、広場にあった時計台も全て流失しました。

しかし、奇跡的に鐘の1つが音の出る状態で発見されました。その感動的な思いから、町内の復興イベントにおいてこの鐘を「希望の鐘」と名付けて新生女川の復興のシンボルとしました。

この鐘を商店街に設置したのは、女川町の復興に「希望を与え、みんなに愛され、大事にしよう」ためです。

又、この商店街のオープンには、まさに女川町の復興の第一歩となることから、「希望の鐘」の様にたくましく、皆様に長く愛され、大事にされたいとの思いから「きぼうのかね商店街」と名称を付け、この商店街の象徴にもなっています。

視察概要

1 TDK(株)撤退の現実と対策
（にかほ市）

にかほ市は、秋田県南西部に位置し、東端に由利本荘市、南端に山形県遊佐町に接している。人口は約2万7千人で昭和15年に分工場が建設されたTDKの生産拠点として、また、これに伴う電子デバイス産業を中心に機械・金属部品加工の関連工場が集積した企業城下町として発展し今日に至っている。

平成24年1月末に、TDK(株)にかほ市にある同社グループの3工場を閉鎖すると発表した。従業員約700名については、別工場へ配置転換し雇用を維持するものであったが、関連企業でTDK(株)からの契約解除された企業は4社あり、いずれも全ての業務がTDK(株)からの受注で、従業員数は約760人に上る。

TDK(株)の拠点閉鎖は、昨年末を含めると6か所になることから、秋田県とし



雪冷房システムの説明を聞く議員団

ても緊急対応し、国・県・市と連携し、様々な対策を実践している。具体的には、秋田労働局が「秋田労働局緊急雇用対策本部」、東北経済産業局が「秋田地域支援チーム」を設置している。県・市の雇用対策として、緊急雇用創出臨時対策基金事業で225名の雇用を生み出している。

本町においても、不況が深刻であり関係機関が連携しあらゆる手立てを講じていくことを望むものである。

2 克雪・利雪

雪冷房システム

（横手市）

県立青陵学院中学校・高等学校の雪冷房は、自然工



女川町仮設商店街

エネルギーを利用して環境負担軽減、省エネルギーを図ることを目的として、冬期における駐車場の確保と排雪費用及び冷房に必要な電気代の削減という経済的にも有益との事から視察を行う

った。雪冷房設備の仕組みは、融解水「熱交換冷水」循環方式で氷室内に9000tの雪を貯蔵し、夏期に散水により雪を融雪させ、熱交換器で校舎内を循環する水を冷却するものである。

広い学校の一部分のみを冷却する場合もメイン動力を稼働しなくてはならないなど、改善すべき点も多いが、本町のような豪雪地帯においては小規模施設であれば十分活用できるシステムと思われる。

3 企業誘致成功の努力

(大衡村)

グループ3社の統合で、国内第3の拠点となるトヨタ自動車東日本の企業誘致が実現した大衡村の視察を行った。

大衡村は、宮城県のほぼ中央に位置し、総面積60.19km²で中央部に国道4号、東部に東北自動車道及び東北新幹線が縦断しており、仙台市まで25km、大崎市古川まで15kmの距離にある人口約5千500人の村である。

トヨタ自動車東日本の企業誘致が成功した要因は、もともと宮城県の住宅団地予定地があり、整備が進まない状態となっていたが、東北自動車道の大衡インターが整備され物流コストが大幅に削減されるなど、企業進出の好条件がそろったことが大きい。

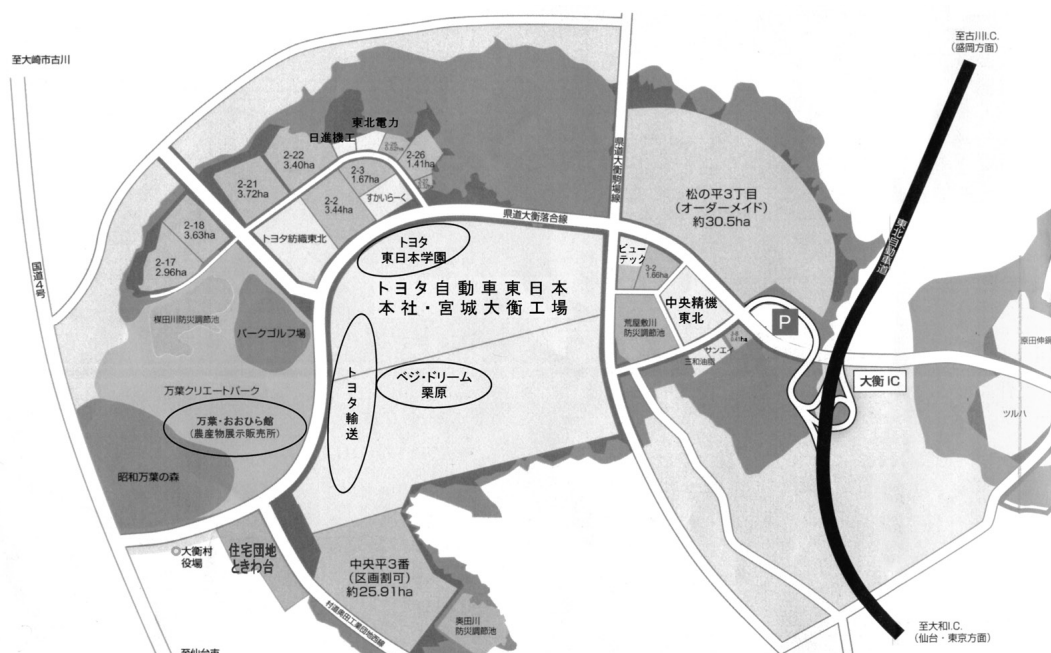
さらに、村では企業誘致の優遇制度で最大3億円の補助金、県の優遇制度では最大40億円の補助金制度を創設するなどの誘致策も後押ししたものと思われた。

4 震災復興（女川町）

東日本大震災の震源地に一番近く、大きな被害を受けた女川町を視察した。

地元観光協会の職員とボランティアの方に案内していただき、被災の現状を見せて頂いた。

まだまだ瓦礫の処理が進まず、一つの町全体がなくなっている現状を見ると、地方自治の原点である「住民の安全と健康を守る」ということの重要性、重大性を痛感した視察となった。



大衡村に誘致したトヨタ自動車東日本

議員研修会

期 日 10月1日(月)
場 所 町役場大会議室
演 題 「議員活動から
議会活性化へ」

講 師

新潟県立大学
国際地域学部准教授
田口一博氏

地方自治法が改正された
ことを受け、「議員活動か
ら議会活性化へ」と題して
講演をいただいた。



田口氏の講演

1 様々な議会活性化

- ① 議会改革は行政改革の延長。
- ② 説明責任を果たすことは、議会機能の向上を図ることの第一歩。
- ③ 議会の先例慣例を見直し、住民参加できるような機能の充実強化。
- ④ 見える議会
ア、議案資料を提供しているか。
イ、どのような審議を行ったのか。
ウ、町民にどのような活動をしているか知らせる必要性がある。

2 会議の活性化

- ① 本会議での一般質問のあり方。

3 調査活動の活性化

- ① 議員は専門的知識をもって調査活動を行う必要がある。
- ② 新しく本会議における参事人が必要に応じてぶつことができるようになった。

4 その他

町を活性化するには、各団体、組織、学校などから自由な意見を聴きとりしていく必要がある。その意見をもとに町づくり、あるいは議会のあり方などに充分活用すべきである。

各議会で通年議会が行われているが、町の実情に合わせて今後検討していく必要がある。

自治法改正を活かしながら議会のあり方を再度認識していくことが求められる。

置賜広域行政事務組合議会

これまで東日本大震災後、石巻市の家庭ごみ可燃物を千代田クリーンセンターに受入れ焼却してきた経過から、可燃性災害廃棄物の本格的受入れを検討してきたが、宮城県内で仮設焼却施設が稼働開始したため、施設の見学と今後の見通しを視察した。

◆視察日

平成24年10月3日(水)

◆石巻ブロック焼却施設

処理能力一日1500t
(泥状物や粉体、廃プラ類も焼却可能)
(参考)

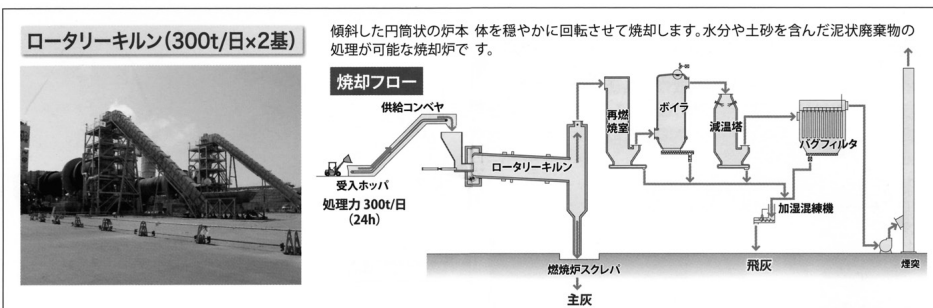
千代田クリーンセンターの処理能力は、一日最大255t

◆処理の考え方

金属、コンクリート屑、アスファルト屑は原則として再利用、木くずはボード原料、燃料として資源化を優先する。

◆他地区での処理

- 東京都へ貨車輸送
- 北九州市へ海上輸送
- 他地区への移送は見合わせ



石巻ブロック焼却施設

小国町・関川村議員交流会



山本課長の講演

11月30日（金）役場大会議室において、恒例である関川村議員との交流会が開催され、国土交通省北陸地方整備局飯豊山系砂防事務所の山本敏一調査・品質確保課長より、「小水力発電について」講演をいただき、その後、大字樋ノ沢地内の砂防堰堤を活用し落下水を



砂防堰堤の小水力発電視察

直接利用した小水力発電装置の現場を視察した。

年頭のあいさつ

小国町議会議長 伊藤重廣



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、豪雪の中で新年を迎え、猛暑、豪雨による災害と自然の猛威にさらされた年でありました。そし

て、長引く不況による景気の低迷と住民の皆様には大変な一年であったと痛感しております。

今年は、皆様のお力と知恵をお借りしながら、議会と町が協力し町経済の向上のために努力していく覚悟であります。御協力よろしく願います。

議会では、十二月定例会から議会本会議のインターネット中継を始めました。議会を身近に感じていただけるものと思っております。

本年が皆様にとって良い年でありますようお祈り申し上げます。

議会インターネット中継始まる

かねてから町民の方々から要望されておりました議会中継システムが12月定例会より稼働し、本会議の様子をライブで伝えることができるようになりました。また、録画映像も配信可能となりました。

12月定例会の中継では、町民の方をはじめ、町外、県外の方々からも議会や町に多くの意見が寄せられました。初めて議会を見たという方もおり、開かれた議会に向けて一歩前進したと考えております。

今後も皆さんからいただいたご要望に応えながら、町民の皆さまにより身近な議会を目指していきたいと思えます。今後もご意見、ご要望等をどしどしいただければ幸いです。



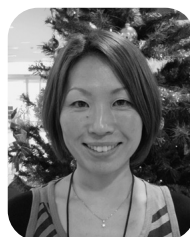
小国町議会 H P アクセスバナー



中継コントロール装置

まちかど Machikado-Interview インタビュー

町の人から
ちょっとひとこと



栄町
村上 小百合

プロフィール

短大卒業後、カナダへ単身スキー留学し、そのまま現地の旅行会社へ入社。2004年小国町出身の主人と出会い、結婚。16年間のカナダ生活を経て、2012年8月小国町に家族で移住。PEAK | YOGAスタジオ主宰

Q ヨガを始めたきっかけは？
A カナダでの子育てと仕事で忙しい中、身体と心のバランスを整えたいと思った。

Q ヨガを始めて変わったことは？
A 風邪をひかなくなった。



アスモ内でのクリスマス会

身体のだるさが取れた。心豊かにゆとりができ、ヨガを通して健康のことも環境のことも人間関係も繋がって考えられるようになった。

Q 日々のレッスンで心がけていることは？
A 自分のペースで無理をしないで、楽しみながら続けていけるレッスンを提供できるような指導している。

Q これからの方向性
A 現在の活動は、自宅スタジオや地域の介護福祉施設でヨガストレッチクラスを指導している。また、介護職に赴く方や、子育て中のママさんや多忙な毎日を過ごす方々のストレス軽減、運動不足の解消など多くの方々に「ヨガ」を知っていただき、心身と

もに元気になっていただきたい。

Q 町の皆さんへメッセージ

A 小国町をもっと元気に！
するために、地域住民が一丸となって、子どもたちを育てること。その子ど

もたちが次の世を背負い、家族や地域を支えていくのだから。「地域力、ローカルパワー」は無量大。この町が素敵に輝き、住民皆が「この町大好き！」と思ってもらいたい。

表紙の言葉

沖小歌舞伎



沖庭小学校6年
きみず 瑞 姫 今

沖庭小学校の歌舞伎は、今年で二十五回目を迎えました。いつもは五、六年生が演じるのですが、今年は三年生から六年生まで心を一つにして演じました。

練習では、六年生が師匠になつて下の学年に教えます。私は弁天小僧菊之助を未夢さんに教えました。セリフの言い回しや拍子木に合わせた動き、そして見得を切るのが大変です。二学期からは古田のお師匠様にも指導を受け、演技にみがきかけます。



続けてほしい沖小歌舞伎

公演当日は、白波五人男の役の一人一人の名乗りの場面が特に上手でした。立ち合いの場面もみんなそろって、観客のみなさんからたくさん拍手をいただきました。

来年も、みんなの自信と誇りになっている歌舞伎を続けていってほしいです。

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年暮れには政権が交代しました。一番望まれる事は、経済の建て直しだと思います。小国町が元気を回復し、活気が戻ることを願います。多目的屋内運動場の建設工事も順調に進み、オープン後、子ども達から高齢者まで、元気な声が聞こえてくるのが楽しみです。

雪国の小国町に今までの「ふれあいの家」よりも広い屋内運動場は、町民に、より愛され、利用され町民の元気づくりの場として期待されているのではないのでしょうか。

今年は、大きな災害のない年で明るい話題がありますように。

記 齋藤

発行責任者

議長 長 伊藤 重廣
議会広報特別委員会
委員長 小林 嘉
副委員長 小関 和好
委員 齋藤 弥輔
遠藤 和彦